

発行：日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)

会長：木下 冨雄

事務局：〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室 気付

発行責任者・事務局担当理事

TEL. 0298(53)5380 FAX. (55)3849

池田 三郎

--- 目 次 ---

1. 年次総会・春期講演シンポジウム案内
2. 第7回研究発表会の日程と企画テーマ
3. 日米合同研究発表会(年会)1995についてのアンケート
4. 第6回研究発表会報告より
5. 事務局だより
  - 5.1 1994年度会費納入のお願い
  - 5.2 会員状況
  - 5.3 学会賞基金への募金のお願い
  - 5.4 学会誌第6巻第1号への原稿(論文、短信)募集
  - 5.5 他学会ニュース
  - 5.6 環境工学連合講演会
  - 5.7 SRAニュース
  - 5.8 学術会議ニュース

1. 年次総会・春期シンポジウム案内

1994年度の年次総会と第7回春期講演シンポジウムを下記の要領で開催することになりましたのでご案内いたします。

年次総会：第3期役員選出，事業計画，決算，予算，その他。

春期講演シンポジウム：マン・マシーンインターフェイスのリスク問題

趣旨：さまざまな分野における安全問題を考える際のヒューマンファクタの重要性が関係者の間で認識されるようになってから久しくなります。そこで、日本リスク研究学会ではヒューマンファクタについて改めて総合的な視点から討論する機会としたいと考え下記の講演シンポジウムを企画しました。大勢の皆様参加をお待ちしております。演者については現在交渉中ですので詳細が決まり次第お知らせ致します。

(1) テーマ：「リスク学の視点からマン・マシーンインターフェイスを考える」

(2) 日時：平成6年6月10日(金) 13:00 ~ 13:50 年次総会  
14:00 ~ 17:00 講演シンポジウム

(3) 場所：東京大学山上会館(東京都文京区本郷7-3-1)

(4) プログラム：

1) 特別講演：安全性とヒューマンファクター(演者は交渉中)

2) パネル討論会

「リスクアセスメントにおけるヒューマンファクターの取り扱い」

i) 航空機事故, ii) 自動車事故, iii) 大型構造物(原子力発電)事故など

3) 懇親会 山上会館1階 17:10 - 会費 3,000円程度(予定)

(5) 連絡先 放射線医学総合研究所 小林 定喜 (043-251-2111)  
東京大学医学部 草間 朋子 (03-3812-2111 内3502)

## 2. 第7回研究発表会のお知らせ

日本リスク研究学会の第7回研究発表会を1994年11月24日(木)、11月25日(金)の2日間で予定をくみ、「制度・システムの疲労・劣化によるリスクとその社会的管理」というテーマで、東京都内で開催することになりました。例年の通り多くの会員の参加を期待しております。また、会員の内外を問わず、リスク研究に関するアイデアや視点、実施例についての意見交換や技法開発の試みのご発表を歓迎いたします。

- (1) 日時：1994年11月24日(木) 9:30 - 16:30  
11月25日(金) 9:30 - 16:00

- (2) 場所：東京海上本社ビル新館15階会議室(東京都千代田区丸の内1-2-1 TEL.03-3285-1711)

- (3) 研究発表は、1人20分程度、討議10分程度を考えています。発表件数により変更があることをあらかじめお断わりいたします。

- (4) 今回のテーマに関連した特別講演を予定しております。

- (5) 総合テーマ：「制度・システムの疲労・劣化によるリスクとその社会的管理」

社会の制度やシステムは、長年の内に疲労・老化・劣化等の諸症状を顕在化させて、内的、外的に変容を迫られることになる。今回は、種々の分野の制度、システムにおける特徴的な事象をとり上げ、制度の疲労やシステムの劣化の現状を分析し、それらのリスク評価の視点、評価方法、リスク回避・軽減策、及び社会的レベルでの管理方法の在り方等について考えてみることにしたい。

- (6) 研究発表は以下の3つの企画セッションと2つの一般セッションとします。研究発表のテーマとしては、リスク研究に関するものであれば、特に分野を問いませんが、各セッションに関するケーススタディーなどはとりわけ歓迎いたします。

企画セッション1：「制度・システムに潜在するリスクとその発見及び管理」

上記の総合テーマに関連する話題として、例えば、教育システム、リスク感性、経営・生産システム、社会基盤システム(情報、交通、上下水道、電気、ガス、廃棄物処理、リサイクル等)について考察を行いたい。

企画セッション2：「リスク感性訓練の社会的教育システム」

今後益々、多様化・複雑化するリスクを管理するためには、法規制や社会風潮等の外的基準に従うだけでなく、個人レベルでリスク感性を磨き、自ら行動できることが重要であり、社会全体としての教育システムが求められている。

企画セッション3：「製造物責任とリスク」

最近、製造物責任の法制化の動向が注目されているが、製造物責任をリスクとして捉えた上で、このリスクへの評価・分析手法や安全対策等について考察を行う。

一般セッション1：「リスクの認知と管理ほか」

一般セッション2：「リスク・コミュニケーションの在り方ほか」

- (7) 発表申込み締切：7月末日

- (8) 発表を希望される方は、氏名(連名者を含む)、所属、連絡先、電話番号、希望の発表のセッション名(上記の企画1、2、3に加えて一般1、2いずれか)に研究の概要(400字程度)を最終頁に添付の申込み用紙に記入の上、下記までお送り下さい。

〒606 京都市左京区吉田本町 京都大学工学部衛生工学教室  
第7回日本リスク研究学会研究発表会事務局 森澤 眞輔宛  
Tel.075-753-5155 Fax.075-753-5175

なお、研究発表のプログラムの制約から、発表論文の採択については実行委員会に御一任くださるようお願い申し上げます。

(9) 発表原稿締切：10月末日必着

(10) 講演要旨集：発表原稿は講演要旨集として発行しますので、必ずワープロにて原稿を作成していただきますようお願いいたします。原稿は1行48字で42行、1頁あたり2016字にて4-8頁でA4用紙に仕上げただけであれば、そのままオフセット印刷を効率よく進めることができますので、御協力のほどお願い申し上げます。活字10.5ポイント(5号級)、文字ピッチ3/20インチ(3.6mm)、行間ピッチ1/4インチ(6.0mm)を基本にいたしますが、原稿を約80%に縮小することを留意して図表などを作成してくださいようお願いいたします。

(11) 参加費：4,000円(予定) (講演要旨集、会場費を含む)

### 3. 日米共同年次学会（1995、ハワイ）に向けたアンケートのお願い

リスク学会会員各位：

1993年12月のSRA理事会において、1995年12月第1週にハワイにて、年次学会が開催されることとなり、日本のリスク学会も同じ場所で連携して開催することで合意されました。日米共同セッション、SRAの他のセッション、日本のリスク学会主催のセッション（日本語）の3つが同じ会場群で運営される予定です。

参考のために、1992年（San Diego）でのSRA学会の日程をのせます（次頁）。3日間で合計50 Platform Sessions（約5件/セッション）の口頭発表と50件程度のポスター発表がありました。企画の内容など、今後ニューズレターで発表してゆく予定ですが、当面皆様の御意向をお伺いしたく存じます。

会報の最後の頁にあるアンケート用紙（英文）にご記入の上、遅くとも、4月8日（金）までに、ご回答をお願い申し上げます。なお、論文テーマ（口頭またはポスター・セッション）は共同・個別セッションを企画するためにも是非ご記入下さい。

---

返送先：盛岡 通 教授 （〒565 吹田市山田丘2-1 大阪大学工学部環境工学科）  
Fax No.： 06-877-8497

---

# (参考資料) 1992 Annual Meeting Schedule

Time	Room	Event
<b>Sunday, December 6</b>		
9:00 a.m.- 1:00 p.m.		Tour: San Diego
9:00 a.m.-12:00 p.m.	Lancaster/Cardiff	Workshop: Desktop Chemical Risk Assessment
9:00 a.m.- 4:30 p.m.	Stratford/Durham	Workshop: Risk Analysis Fundamentals
9:00 a.m.- 4:30 p.m.	Pembroke/Leeds	Workshop: Process Safety and Risk Management Plans
9:00 a.m.- 5:30 p.m.	Bradford/Somerset	Workshop: Residential Exposure
12:30 p.m.- 5:00 p.m.	Lancaster/Cardiff	Workshop: California's Proposition 65
12:30 p.m.- 4:30 p.m.	Manchester	Discussion: Natural Disasters and Technology Risks
1:00 p.m.- 5:00 p.m.	Windsor Complex	1991-92 SRA Council Meeting
2:00 p.m.- 5:30 p.m.		Tour: San Diego Zoo
4:00 p.m.- 7:00 p.m.	Garden Room	Registration
4:00 p.m.- 7:00 p.m.	Grande Hall	Book Exhibit
5:00 p.m.- 7:00 p.m.	Promenade Deck	Reception—All Registrants
<b>Monday, December 7</b>		
8:00 a.m.- 4:00 p.m.	Grande Hall Foyer	Registration
8:00 a.m.- 4:00 p.m.	Grande Hall	Book Exhibit
8:30 a.m.-10:00 a.m.	Ballroom	Plenary Session
10:00 a.m.- 6:00 p.m.	Grande Hall	RiskWare '92 (Exhibit)
10:30 a.m.- 5:00 p.m.	(see pages 6-17)	<u>Platform Sessions</u> $6 \times 4 = 24$ sessions
10:30 a.m.- 5:45 p.m.	Grande Hall	Poster Session I: Track 4/Video Presentation
12:00 noon- 1:30 p.m.	The Crown Room	Luncheon Meeting
5:30 p.m.-11:00 p.m.		Tour: Tijuana Shopping with Dinner
<b>Tuesday, December 8</b>		
7:00 a.m.- 8:30 a.m.	Stuart	Breakfast: New Members
7:00 a.m.- 8:30 a.m.	Executive	Breakfast: Chapter Representatives
7:00 a.m.- 8:30 a.m.	York/Kent	Breakfast: Foreign Registrants
8:00 a.m.- 4:00 p.m.	Grande Hall Foyer	Registration
8:00 a.m.- 4:00 p.m.	Grande Hall	Book Exhibit
8:30 a.m.- 6:00 p.m.	Grande Hall	RiskWare '92 (Exhibit)
8:30 a.m.- 5:00 p.m.	(see pages 6-17)	<u>Platform Sessions</u> $6 \times 4 = 24$ sessions
8:30 a.m.-12:00 noon	Grande Hall	Poster Session I: Track 4/Video Presentation
12:00 noon- 1:30 p.m.	The Crown Room	Luncheon—SRA Business Meeting
1:00 p.m.- 5:45 p.m.	Grande Hall	Poster Session II: Tracks 1, 2, 3, & 6/Video Presentation
7:00 p.m.- 9:00 p.m.	Windsor Complex	1992-93 SRA Council Meeting
7:30 p.m.- 8:30 p.m.		Specialty Group Meetings
	Hanover	Risk Communication
	Edison I/J	Ecological Risk Assessment
	Babcock A/B	Engineering
	Story E/G	Global Risk Analysis
	Story F/H	Exposure Assessment
<b>Wednesday, December 9</b>		
8:00 a.m.-11:00 a.m.	Grande Hall Foyer	Registration
8:00 a.m.-11:00 a.m.	Grande Hall	Book Exhibit
8:30 a.m.- 3:00 p.m.	Grande Hall	RiskWare '92 (Exhibit)
8:30 a.m.- 5:00 p.m.	(see pages 6-17)	<u>Platform Sessions</u> $6 \times 4 = 24$ sessions
8:30 a.m.- 3:30 p.m.	Grande Hall	Poster Session II: Tracks 1, 2, 3, & 6/Video Presentation
12:00 noon- 1:30 p.m.	The Crown Room	Luncheon Meeting

The SRA office will be located in Room 36 at the hotel.

#### 4. 第6回研究発表会の報告

日本リスク研究学会第6回研究発表会は、昨年11月25・26日の両日、新宿の高層ビル群にあります安田火災海上保険(株)の講堂を拝借して開催されました。本学会の学際的性質を反映して、さまざまな領域から約100名の参加があり、熱意のある発表と活発な討論がありました。企画セッションについて、司会者によるまとめが次の学会誌に掲載される予定ですが、講演要旨をはじめ、個々の研究発表の内容は論文集(90頁)に載せてありますので、学会事務局までご請求下さい(一部:3,000円)。

#### 日本リスク研究学会 第6回研究発表会プログラム

11月25日(木)

9:30-11:30 企画セッションI (リスク・コミュニケーションと意思決定)

司会 内山 巖 (国立公衆衛生院)

1) 化学品安全管理のためのリスク・コミュニケーション

○関沢 純、大竹千代子(国立衛生試験所)、大島輝夫(化学品安全管理研究所)、  
後藤京子(日本中毒情報センター)

2) 神奈川県における化学物質環境安全対策と情報提供

○松本 徹(神奈川県環境部)、吉見洋、岡敬一(神奈川県環境科学センター)

3) 消費者の安全のために製造者に求められる商品情報

ワン 松子(国民生活センター)

4) リスク・コミュニケーションにおける消費者の役割

神山 美智子(東京弁護士会)

13:00-14:00

特別講演

司会

酒井泰弘(筑波大学社会科学系)

『リスク学の課題 — 安全と危険』

末石富太郎(初代会長、京都精華大学)

14:10-16:30 シンポジウム

「リスク対話とリスクの説明と同意(インフォームド・コンセント)」

司会 三浦 卓(国立環境研究所)

1) 環境問題におけるリスク・コミュニケーション 中村 正久(滋賀県琵琶湖研究所)

2) 事業者と住民のリスク・コミュニケーション 山中 芳朗(電力中央研究所)

3) 診療放射線技師教育におけるリスク・コミュニケーション教育

岩波 茂(北里大学医学部)

4) 医師と患者のリスク・コミュニケーション 箕輪 良行(自治医科大学大宮医療センター)

11月26日(金)

9:30-11:30 一般セッションI (リスク評価とリスク認知)

司会 関沢 純(国立衛生試験所)

1) 放射線リスク評価のための動物実験における統計的モデルの適用について

緒方 裕光(国立公衆衛生院)

2) 一般人の量・反応関数の認知について

中谷内 一也(関西女子学院短期大学)

3) 日本とフランスにおける放射線リスクに対する認識の差

○斉藤 節子(放射線疫学調査センター) 草間 朋子(東京大学医学部)

4) 医療従事者のHIV感染者・エイズ患者に対する意識と診療構造—全国調査結果の分析

○広瀬弘忠、中村仁美、中敏菜穂子、宮川稔子、杉浦祐子、

高梨靖恵(東京女子大学文理学部)

12:30-14:00 企画セッション2 (リスク・マネジメントと保険)

司会 加藤和彦 (安田火災海上保険)

- 1) 製造物責任リスクと保険 朝見 行弘 (福岡大学法学部)
- 2) 企業経営とリスク・マネジメント 森宮 康 (明治大学法学部)
- 3) 危機管理におけるリスク・コミュニケーション 首藤 信彦 (東海大学政治経済学部)

14:00-16:00 企画セッション3 (環境監査：製造者と消費者のリスク・コミュニケーション)

司会 天野 博正 (電力中央研究所)

- 1) 環境監査の考え方およびその動向 矢部 浩祥 (中央大学商学部)
- 2) 公害防止管理から環境監査へ 木暮 和美 (日本エヌ・ユー・エス (株))
- 3) 環境資源・経済勘定系と予見的リスク管理 池田 三郎 (筑波大学社会工学系)
- 4) リスク情報の提供にかかわる制度的枠組みについて 浅見 政江 (慶応義塾大学大学院)

5. 事務局だより

5.1 会費納入のお願い

1994年度の会費の納入をお願い致します。学会費のほとんどは学会誌、ニュース・レターの発行に使われていますので、早期の納入をお願いいたします (郵便為替用紙在中)。

学会費は1990年度以来、下記のように据置いてがんばっています。また、通信経費の節約のため学会の領収書は発行しませんが、必要な方はお知らせ下さい。

なお、1993年度以前の会費の未納の方は (封筒にお知らせがあります) 出来るだけ早く納入下さい。

正会員 (国際、国内) 4,000円  
 準会員 (学生) 2,500円  
 賛助会員 30,000円

振込先：郵便振替番号： 宇都宮 3-11964

日本リスク研究学会

305 つくば市天王台1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室 気付

銀行口座：常陽銀行 研究学園都市支店 普通口座 6814236

日本リスク研究学会

5.2 会員状況

会員状況 (1993年4月20日-1994年3月15日まで)

	継続	新規入会	退会	合計
正会員	286 (284)	23 (13)	6 (5)	309 (292)
準会員	11 (8)	1 (3)	0 (0)	12 (11)
賛助会員	17 (16)	1 (2)	1 (0)	18 (18)
合計	314 (308)	25 (18)	7 (5)	339 (321)

注：( )の数は前年度の会員数

### 5.3 学会賞基金への募金のお願い(再掲)

会員各位

拝啓：日本リスク研究学会も、創設以来、年1回の研究発表会および春季講演の開催、学会誌の発行(年1回)、日本学術会議への加盟など、リスク学の発展の為に着実に歩んでまいりました。さらに、会員諸氏およびリスク学事典編集委員の努力により、学会誌特集号として、「リスク学のアプローチ」が完成し、お手元にお届けすることができることになりました。リスク学を学び、研究する者にとって有益なものであると確信しています。

これを機会に、学会発表、論文の投稿等を奨励し、リスク研究の発展を促すために、下記のような「日本リスク研究学会賞」の創設を決定致しました。目下、理事会にて選考方法など細部を検討している段階です。

つきましては、学会賞基金を創設するために、会員諸氏の募金をお願い出来ないでしょうか。優れた研究を生み出すために会員が互いに浄財を持ち寄り、これを原資に運営しようという趣旨です。何かと物いりの時期で誠に恐縮ですが、学会賞創設の意義をご高察の上、是非ご協力下さるようお願い申し上げます。

敬具

日本リスク研究学会 会長 木下 富雄

#### 日本リスク研究学会賞(案)の概要

学会賞：論文賞 (本学会誌上発表された優秀な論文を対象とする)  
：奨励賞 (本学会の研究発表における発想、方法、事例等の優れた研究を対象とする)

学会賞基金募金目標額：200万円

募 金 1 口 : 1000円

(正会員：3-5口程度、賛助会員：50-100口程度を目標)

募 金 期 間 : 平成5年9月~平成6年9月 (同封の振替用紙を御利用下さい)

担当役員：総務担当理事 内山 滋雄(国立公衆衛生院)

問い合わせ先：日本リスク研究学会事務局 筑波大学社会工学系 池田研究室気付

〒305 茨城県つくば市天王台1-1-1 Tel.0298-53-5380, Fax.0298-55-3849

#### 学会賞基金募金状況 (平成6年1月末現在)

##### (賛助・企業会員)

東京海上火災保険(株)、日本モンサント(株)、日本エヌ・ユー・エス(株)  
大成建設(株)原子力部、セメダイン(株) (小計 158口)

##### (個人会員：順不動)

末石富太郎	谷口 守	大島輝夫	芥 潤一	関沢 純	高月 紘
佐藤茂秋	菅原 努	横山栄二	田村坦之	明島高司	吉川肇子
田中 勝	堀内三郎	辻本 誠	森澤眞輔	植田和弘	本田 靖
大塚正弘	田口幸夫	酒井康弘	村山武彦	田所孝生	玉井 淨
池田正之	池田三郎	山田明男	天野博正	池上 淳	堀田敬之
盛岡 通	甲斐倫明	木下芳広	狩野文久	関沢 愛	岩波 茂
木下富雄	(小計 37名	243口)			

合計 401口 401,000円

#### 5.4 学会誌第6巻第1号への原稿(論文、短信)募集

当学会では10月末に日本リスク研究学会誌第6巻第1号の発刊を予定しております。昨年の第6回研究発表会での講演を中心に編集する方針ですが、会員の皆様の研究成果やご意見を積極的に掲載する予定です。特に、「リスク」問題に関して会員の皆様が日頃お考えのご意見を「研究短信」としてまとめていただき、できるだけ数多く掲載する予定です。ですので下記の要領でご寄稿下さい。

- (1) 原稿締切 : 1994年6月30日(但し、研究論文は4月30日)
- (2) 原稿枚数 : 研究短信 1~2頁、寄稿論文 1~6頁、研究論文 8頁以内、  
(すべて刷り上がり頁数)なお、規定ページ数におさまった場合は掲載料は無料としますが、超過した場合は、超過ページ数に応じて印刷等に係わる費用を負担していただくことになります。
- (3) 論文別刷り : 100部以上50単位で、有料にて申し受けたいします。
- (4) 原稿サイズ : 1ページにつき40行22字詰め(図表等すべてを含む)
- (5) 採否の決定 : 寄稿論文、研究短信は編集委員会が採否を決定いたします。研究論文は複数(2名程度)の査読者による審査結果にもとづいて、編集委員会が採否を決定いたします。
- (6) 投稿・執筆要領 : 日本リスク研究学会誌巻末に記載の投稿・原稿作成規定を熟読の上、投稿して下さい。既刊号の論文、短信の体裁もご参考にして下さい。

#### 5.5 他学会ニュース

## ICCEF'94

Sixth International  
Conference  
on the Combined Effects  
of Environmental  
Factors

第6回国際環境複合影響会議

SEPTEMBER  
25-28,  
1994  
TOYAMA  
JAPAN

First  
Announcement  
and  
Call for Papers

#### Welcome to Toyama

Welcome to the Sixth International Conference on the Combined Effects of Environmental Factors, ICCEF'94. The conference will be held in Toyama, Japan, during the period of September 25 to September 28, 1994. This conference is organized under the auspices of the International Society of Complex Environmental Studies (ISCES).

ICCEF'94 invites all scientists who are interested in the complex interactions or combined effects of various physical, chemical, -psycho-social and biological environmental factors on human health. The conference will be a good opportunity to exchange new information and ideas on the modern approaches to methodology of studies, risk assessments and control of interactive effects of environmental factors.

In Toyama you will also enjoy the modern and old Japanese life-styles and the beautiful scenery and wilderness of the mountain range, Tateyama (the Japan North Alps), attaining 3,000 m in elevation.

加藤 隆夫

Minoru KASUYA  
President and Chairman  
ICCEF'94

#### Pre-registration Form

### ICCEF'94

- Please send me the second announcement.  
 I am interested in submitting an abstract. Please send me the author's kit.

Title:  Professor  Dr.  Mr.  Ms.

Name (Family name) \_\_\_\_\_

(First name) \_\_\_\_\_

Organization \_\_\_\_\_

Mailing Address \_\_\_\_\_

Country \_\_\_\_\_

Telephone \_\_\_\_\_

Fax \_\_\_\_\_

Return to:

ICCEF'94 SECRETARIAT  
DEPT. PUBLIC HEALTH  
FACULTY OF MEDICINE  
TOYAMA MEDICAL &  
PHARMACEUTICAL UNIVERSITY  
2630 SUGITANI,  
TOYAMA, 930-01 JAPAN

Telephone: 0764-34-2281

Fax: 0764-34-5023

## 5.6 環境工学連合講演会

日本リスク研究学会も共催学会の一つとして参加しています日本学術会議および環境工学研究連絡委員会主催の第9回環境工学連合講演会が平成6年1月18-19日に日本学術会議にて開催されました。本学会からは草間朋子理事が学会を代表して研究発表をしていただきました。発表論文の題目およびアブストラクトを以下に示します。

第9回環境工学連合講演会講演論文集 平成6年1月

### (1) 高密度化社会における健康リスクに対する考え方

Health Risk for Radiation and It's Control

草間 朋子\*

Tomoko KUSAMA\*

#### ABSTRACT :

This article describes the basic concepts of health effects of radiation and radiation safety. We could not completely prevent the health risks with radiation exposure, because the health risks from low dose irradiation have not been exactly defined. Also, we could not keep away from potential risks of unexpected situations. The procedures of risk estimation and risk management in the high technological society are strongly needed. We estimated health risks of low dose radiation from assumption based on linear dose response relationship without threshold. On this assumption, the system of radiological protection, which consisted of justification of practice, optimization of protection and dose limitation, were established for radiation protection and safety.

KEYWORDS ; radiation, health risk, probabilistic risk, radiological protection

#### 1. はじめに

種々の有害要因の量あるいは濃度の検出感度が高くなったこと、および、分子レベルの影響まで検出可能になったことなどが関係し、新技術の導入・開発に伴う健康リスクおよびその制限に対する基本的な考え方を整理しておくことが重要である。

技術開発に伴う環境要因の一つである放射線には、環境中の量、濃度はもちろんのこと個人毎の暴露量すなわち被ばく線量まで測定できるという他の環境要因にはない特徴がある。また、利用の初期の段階で人の放射線障害事例が多発したために人体影響に関する情報が比較的豊富であるということも特徴の一つである。

これら二つの特徴が関係し、放射線による人体影響に関しては線量-反応関係あるいは線量-影響関係が明確にされており、放射線に関する安全問題は他の環境要因に比べてより定量的に検討されている。そこで、放射線影響および放射線安全に対する基本的な考え方は、他の環境要因の安全問題を考える際の参考になる。本稿では、放射線の健康影響・リスクその制御に対する基本的な考え方を述べることにする。

\*東京大学医学部放射線健康管理学教室 Department of Radiological Health, Faculty of Medicine, The Tokyo University

日本リスク学会 The Society for Risk Analysis

## 5.7 SRAニュース

学会誌 Risk Analysis (vol.13, no.6, 1993) の目次をお知らせします。記事、論文の複写サービスを有料（コピー代と郵送料：郵便切手で代用可能）にて行いますので、必要な方は事務局までご連絡下さい。

# Risk Analysis

Vol. 13, No. 6

December 1993

## CONTENTS

### ARTICLES

Agency Communication, Community Outrage, and Perception of Risk: Three Simulation Experiments <i>Peter M. Sandman, Paul M. Miller, Branden B. Johnson, and Neil D. Weinstein</i>	585
Uncertainties in Pharmacokinetic Modeling for Perchloroethylene: II. Comparison of Model Predictions with Data for a Variety of Different Parameters <i>Dale Hattis, Paul White, and Paul Koch</i>	599
Incorporating Structural Models into Research on the Social Amplification of Risk: Implications for Theory Construction and Decision Making <i>William J. Burns, Paul Slovic, Roger Kasperson, Jeanne Kasperson, Ortwin Renn, and Srinivas Emani</i>	611
Conditional Influence Diagrams in Risk Management <i>Yuan Hong and George Apostolakis</i>	625
Risk Assessment for Aflatoxin: An Evaluation Based on the Multistage Model <i>J. Bowers, B. Brown, J. Springer, L. Tollefson, R. Lorentzen, and S. Henry.</i>	637
Decidedly Different: Expert and Public Views of Risks from a Radioactive Waste Repository <i>James Flynn, Paul Slovic, and C. K. Mertz</i>	643
Social Equity and Environmental Risk <i>Rae Zimmerman</i>	649
Comparing Toxicologic and Epidemiologic Studies: Methylene Chloride - A Case Study <i>Leslie T. Stayner and A. John Bailer</i>	667
Perceived Risk, Trust, and Democracy <i>Paul Slovic</i>	675
SOFTWARE REVIEW <i>Paul D. Moskowitz</i>	683
BOOK REVIEWS	685

平成6年(1994年)度日本学術会議・国内学術研究団体共同主催国際会議概要

会 議 名	第8回国際神経・筋学会	第24回国際園芸学会	第30回錯体化学国際会議
母 体 機 関	世界神経連合	国際園芸学会	国際純正・応用化学連合
共 催 団 体	日本神経学会	園芸学会	(社)日本化学会 錯体化学研究会
参加予定人数 参加予定国数	国外 1,100人 国内 800人 計 1,900人 (41か国・2地域)	国外 1,000人 国内 750人 計 1,750人 (88か国・2地域)	国外 300人 国内 700人 計 1,000人 (46か国・2地域)
開 催 時 期	7月10日～15日 (6日間)	8月21日～27日 (7日間)	7月24日～29日 (6日間)
開 催 場 所	京都市 (国立京都国際会館)	京都市 (国立京都国際会館)	京都市 (国立京都国際会館)
開 催 間 隔	4年ごと	4年ごと	1ないし2年ごと
組織委員会 委員長	国立精神・神経センター 名誉総長 里 吉 栄二郎	東京農業大学農学部 教授 岩 田 正 利	(準備委員会代表者)立命館大学理工学部 教授 大 瀧 仁 志

会 議 名	第21回世界心電学会	第47回国際情報ドキュメンテーション連盟総会	第2回国際病態生理学学会総会
母 体 機 関	世界心電学会	国際情報ドキュメンテーション連盟	国際病態生理学学会
共 催 団 体	日本心電学会 (財)日本心臓財団	(社)情報処理学会 (社)情報科学技術協会 情報知識学会	日本病態生理学学会
参加予定人数 参加予定国数	国外 500人 国内 1,000人 計 1,500人 (30か国)	国外 400人 国内 800人 計 1,200人 (55か国・1地域)	国外 500人 国内 800人 計 1,300人 (62か国・2地域)
開 催 時 期	7月3日～7日 (5日間)	10月2日～9日 (8日間)	11月19日～24日 (6日間)
開 催 場 所	横浜市 (横浜国際平和会議場)	大宮市 (大宮ソニックシティ)	京都市 (国立京都国際会館)
開 催 間 隔	毎年	2年ごと	4年ごと
組織委員会 委員長	国立療養所中野病院 病院長 春 見 建 一	国文学研究資料館 客員教授 藤 原 鎮 男	日本儀器製薬株式会社生物活性科学研究所 所 長 大 村 裕

日本学術会議主催公開講演会

—— 女性科学研究者に期待する ——

日本学術会議は、学術の成果を国民に直接還元するための活動として、日本学術会議会員が講師となって、市民を対象に年3回公開講演会を開催しています。

この度、次の公開講演会を開催しますので、お知らせします。多数の方々のお来場をお待ちしています。

- (1) 日 時 平成5年11月26日 (金) 13:00～16:30
- (2) 会 場 日本学術会議講堂  
(地下鉄千代田線「乃木坂駅」下車徒歩1分)
- (3) テーマ 「女性科学研究者に期待する」
- (4) 演題及び演者

- ・女性科学研究者問題に関する日本学術会議の取組  
須藤 一 (第5部会員, 東北学院大学工学部教授)
- ・女性学ジェンダー論の発展と役割  
加藤春恵子 (第1部会員, 東京女子大学現代文化学部教授)
- ・自然科学分野に見られる女性進出とこれに伴う諸問題  
本 間 慎 (第6部会員, 東京農工大学農学部教授)

・女性科学研究者の地位向上と基盤整備 (スウェーデンを例として)

一番ヶ瀬康子 (第1部会員, 日本女子大学人間社会学部部長)

〔申込方法〕

聴講 (入場無料) を希望される方は、はがきに、郵便番号、住所、氏名を明記し、11月12日までに下記までお申し込みください (複数人の連記可、FAX送付可)。締切り後も、席に余裕があれば、受け付けますので、下記までお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34  
日本学術会議事務局「公開講演会係」  
TEL 03-3403-6291(代) 内線228  
FAX 03-3403-6224

「日本学術会議だより」について御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34  
日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

日米共同年次学会（1995、ハワイ）に向けたアンケートのお願い

From: Tomio Kinoshita

Question to Japanese society members (including non-members) concerning to SRA joint meeting at Hawaii or US west coast in Dec. of 1996.

Society for Risk Analysis, Japanese Section should decide whether the society hold a SRA joint meeting as a cosponsor at Hawaii or US west coast in Dec. of 1996 or not. Please show your opinion for each question.

1) Are you intending to participate in the planned joint meeting?

- I will participate.  
 I probably participate.  
 I shall not participate.

2) The title of topics is as follows:

"The effects of risk communication" or  
"The structure of public opinion toward  
science and technology"

3) Are you intending to send an entry of group tour, which will take around one thousand dollars including air tickets and comfortable hotel bed with breakfast?

- Yes. I will take part in the group tour.  
 No. I will go on individual basis.  
 No. I will not go to USA.

4) Which do you like to present your paper in joint session in English or particular session in Japanese in the meeting?

- joint session in English  
 particular session in Japanese  
 not determined

5) Do you have any comment or advice on planning and management of the meeting?

.....  
.....  
.....  
.....

6) Please send this questionnaire to following persons of non-members.

Name : .....  
Address : .....  
FAX NO. : .....

Please return this sheet to Dr. T. Morioka not later than ~~Feb 28~~ April 8, 1994.  
FAX NO. : 06-877-8497